

<全体分析>

試験時間 120 分

解答形式

客観式の設問が3問と記述式の設問が5問。

分量・難易（前年比較）

分量（減少・やや減少・**変化なし**・やや増加・増加）

難易（易化・やや易化・**変化なし**・やや難化・難化）

英文の語数は2,102で、5年連続して2,000を超えている。

出題の特徴や昨年との変更点

- ・大問1題の構成は13年続いている。
- ・本学部では、設問はすべて英文の前に置かれている。
- ・字数制限のある内容説明問題が出題されるのが本学部の特徴で、2026年度は「100字以上120字以内」が1問、「60字以上75字以内」が1問出題されている。
- ・2025年度と同様に、他の設問群とは独立した形で英問英答の自由英作文問題が出題されている。
- ・2023年度まで出題されていた和文英訳と比べると自由英作文にはより多くの時間が必要となるため、試験時間が120分あるとはいえ、全体的な時間配分には注意が必要だろう。

その他トピックス

- ・英語辞書を2冊まで持ち込んで使用することができる。ただし、電子辞書は不可なので、普段から紙の辞書を使い慣れておく必要がある。

＜大問分析＞

番号	区分	出題分野・テーマ	コメント（設問内容・答案作成上のポイントなど）	難易度
	読解総合	「言語が思考に及ぼす影響」 (2,102 words)	<p>A：下線部和訳（2問）、空所補充（3問）、内容説明（2問） B：自由英作文（1問）</p> <p>A</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 「ウォーフ」の名が「言語思考説」そのものを指すほど、両者が「同義」化しているという文脈。 2. 言語が思考の「最終決定権」を握るという、言語決定論の定義に合致するものを選択する。 3. 「風」の比喩が示す内容を、「ウォーフ本来の見地に近い穏健な立場」という結論に繋げて解答の骨子を構築する。「本文の議論をふまえて」という条件の抽象度が高く、数ある議論からどの要素を抽出・活用すべきか、取捨選択の判断が難しい一問であった。 4. 語彙・構文・内容ともに比較的平易だが、直訳調を排し、文脈の真意を汲み取った適切な訳出が求められる。 5. “have turned up missing” の訳出に留意。単なる「存在の否定」ではなく、従来普遍的と見なされていた特徴が「特定の言語において欠落している」という、例外の存在を明示するニュアンスを汲み取り、和訳に反映させたい。 6. 個々の言語的特徴が及ぼす影響は微細なものに過ぎないが、それらが増殖（multiply）することで、最終的に大規模な認知パターンの差異を形成するという論理構成を読み取る。 7. 下線部直前の記述に基づき、「微妙な違い」が「私たちの経験する世界を形作る」大規模な認知パターンの構成要素であることを正確に踏まえる。その上で、本文に挙げられた多くの実証例から、認知の異なる側面に触れる二例を厳選し、簡潔に提示する。 <p>B</p> <p>「外国語学習を通して得た他文化に関する最も重要な気づき」という問いに対し、日本語と英語の差異といった、身近で論証しやすい話題を選択すると書きやすい。設問に「解答する際に本文を参考にする必要はない。語彙力・文法力だけでなく、内容の明確さに関しても評価される」とあるとおり、複雑な議論を試みるよりも、論理の透明性と言語の正確さを優先することが得点に直結する。語数指定はないが、解答欄が5行であることを考慮し、60～70語程度を目安とするとよい。</p>	標準

注：区分は「英文解釈」「読解総合」「英作文」「文法・語法」「聞き取り」「その他」

難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

- ・例年、設問のほとんどは記述式なので、正しい日本文・英文を書く訓練を積んでおく必要がある。特に日本文は、自分の言いたいことが採点者に正確に伝わるような文章を心がけてほしい。
- ・内容説明の設問では、設問文から出題者の意図を汲み取ったうえで、英文中から解答の根拠となる部分を抽出する必要がある。100～120字といった字数制限のある説明問題では、解答の根拠になる部分が英文中で一箇所にまとまっていない場合もあるので、過去の問題などを利用して、どの内容を盛り込むべきなのか判断する眼を養っておくとよい。
- ・辞書の持ち込みができるので、難しい語彙・語義に神経質になる必要はない。ただし、見たことのない表現や記憶のあいまいな表現を片っ端から辞書で確認している時間はないので、文系の他学部と同程度の語彙力は身につけておくべきだろう。
- ・自由英作文については、意見論述型を中心に演習を重ねて、使える英語表現と論理の型を習得する必要がある。また、単に英語を学ぶだけでなく、日頃から社会問題や異文化に対して高い関心を持ち、他者の多様な考え方を吸収した上で、自分なりの見解を論理的にまとめる習慣をつけることが大切である。